

人、まち、地域を「動かす人」がいる銀行へ

第98期 営業のご報告

2021年4月1日から2022年3月31日まで

ミニディスクロージャー誌



筑邦銀行

70th anniversary

目次

ごあいさつ	1
経営方針	2
ちくぎんトピックス	3
お客さまへの大切なお知らせ	5
役員／株式について	6
業績ハイライト	7
財務のご報告（単体）	10
当行ブランドの浸透、定着への取り組み	裏表紙

筑邦銀行のプロフィール

設立	昭和27年12月23日
総資産	8,933億円
預金・譲渡性預金	7,996億円
貸出金	5,416億円
資本金	80億円
株主数	2,756名
従業員数	532名
店舗数	44か店 ^(注)

(注) 店舗内店舗形式は10か店
2022年3月31日現在

ごあいさつ

人、まち、地域を「動かす人」がいる銀行へ

皆さまには、平素より筑邦銀行をご愛顧いただき誠にありがとうございます。

2021年度のがわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が停滞する厳しい状況の中スタートしました。その後はワクチン接種も進み、ポストコロナを見据えた経済活動の持ち直しの兆しもみられました。年度末にかけロシア軍によるウクライナへの侵攻が深刻化し、経済見通しは不透明感が急速に高まりました。また、米国や欧州におけるインフレ懸念の台頭とFRBや各国中央銀行の金融政策で、海外金利の上昇とそれに伴う円安傾向が顕著となりました。当行は、引続きお取引先のきめ細かな実態把握に努め、必要なサポートを提供してまいります。


さて、筑邦銀行は2021年4月より3年間の「中期経営計画2021」をスタートしております。当行が目指すべき方向性や視点を、スローガン「人、まち、地域を『動かす人』がいる銀行へ」で表現いたしました。預金・貸出金業務を深掘りする「既存ビジネスの深化」、資産運用支援や事業承継支援、中小企業向け企業型確定拠出年金導入支援、プレミアム付電子商品券発行などの「新たなビジネスへの挑戦」、それを可能とするための人材確保やデジタル化の推進などの「強靱な経営基盤の構築」の3つを重点取組項目として掲げております。外部提携先とのアライアンス戦略の推進や、地域の枠を越えたお客さま支援ビジネスにも挑戦していく所存です。

筑邦銀行は、お客さまのお取引満足度の向上に努めるとともに、地方銀行そのものが地域の有力な金融サービス産業であるとの認識の下、地域の課題解決と地域経済の活性化に尽力してまいります。これからも一層のご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2022年6月

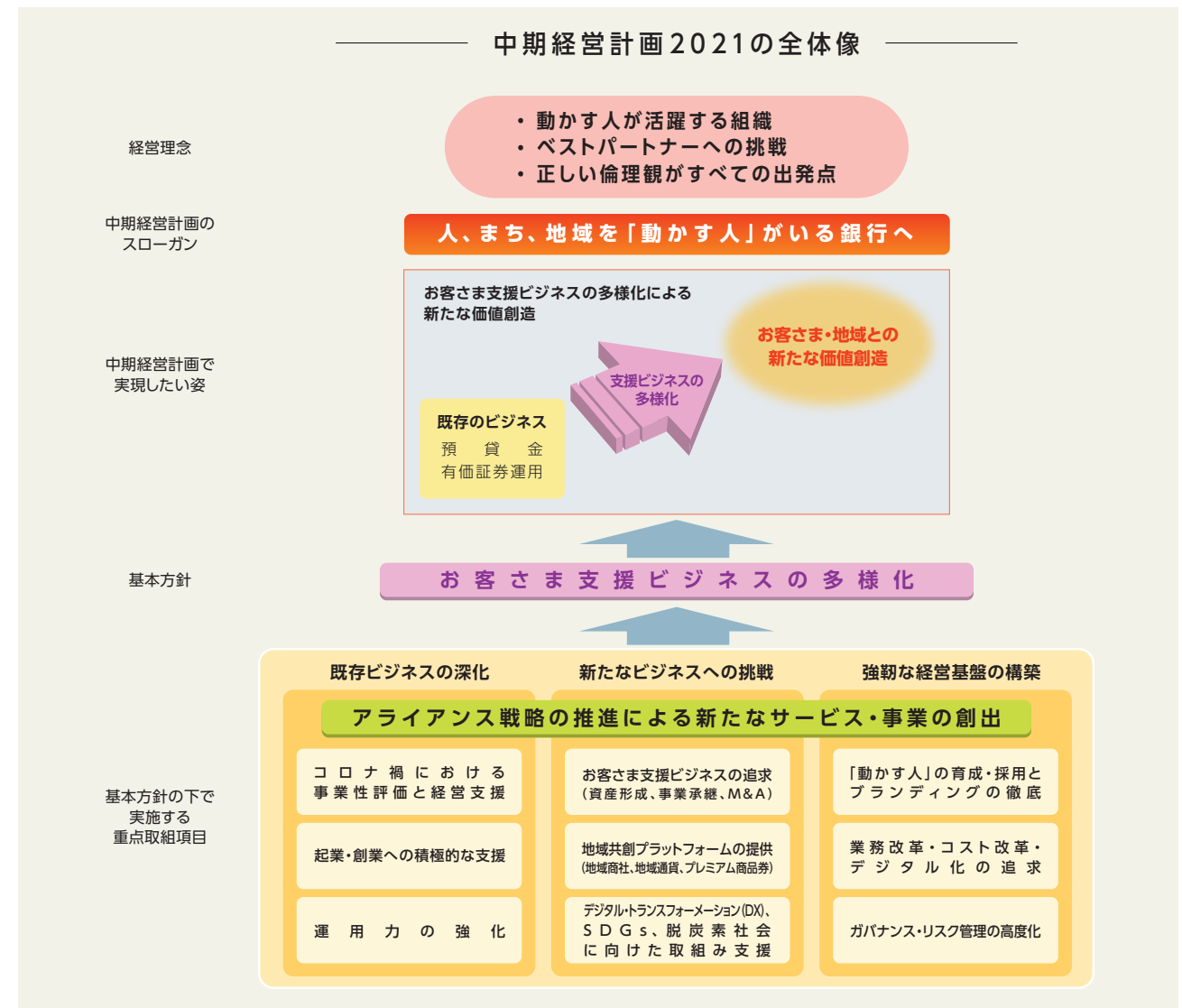


頭取 佐藤 清一郎

 当行はSDGs(持続可能な開発目標)への取組みを全役員で行います。

経営方針

当行は2022年12月に創立70周年、2023年2月に開業70周年を迎えます。これもひとえに、お客さま、地域社会、株主の皆さまの永年に亘るご支援とそれに応じてきた先輩行員の努力の賜物だと感謝申し上げます。こうした70周年という節目を含む2021年4月から2024年3月までの3年間の計画期間とした「中期経営計画2021」を策定しております。



株式永久保有の事業承継 第1号案件成立 2022年1月



第1号案件成立

当行と株式会社Yamatoさわかみ事業承継機構は2020年11月に合併会社「株式会社ちくぎんBusiness Eternal Succession (ちくぎんビジネス エターナル サクセション 通称: 株式会社ちくぎん事業永久承継 所在地: 久留米市)」を設立し、承継企業の株式を永久保有する事業承継案件への取組みを行っております。2022年1月、第1号案件として久留米・鳥栖広域情報株式会社様との事業承継案件が成立いたしました。

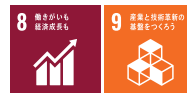


「医療費あと払い」サービスおよび 「健康あんしん口座」の取扱開始 2021年12月



当行の関連会社、株式会社ちくぎんテクノシステムズが株式会社エムイーエックステクノロジーズと業務提携いたしました。本提携により、当行は医療機関に「医療費あと払い」サービスを提供し、医療機関利用者は医療費の支払いに当行口座(口座振替)を指定することで「健康あんしん口座」会員のサービスを受けることができます。

「ちくぎんアプリ」へ新機能を追加 2022年1月



スマートフォン向けアプリ「ちくぎんアプリ」をバージョンアップし、新しく通帳レス切替機能等を追加いたしました。

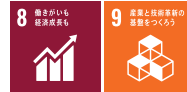
① 複数口座の照会	同一のお取引店における複数の普通預金の口座残高や入出金明細がご照会いただけます。
② 照会科目の追加	従来の普通預金に加え、貯蓄預金、定期預金、積立型定期預金、財産形成預金の口座残高や入出金明細がご照会いただけます。
③ 資産残高一覧表示	複数の預金口座の残高一覧をご確認いただけます。また、各口座の残高を円グラフでご確認いただけます。
④ 通帳レス切替申込	通帳レス口座への切り替えをお申込みいただけます。

※①②③アプリに登録した普通預金の取引店の口座が対象です。
※④取引の内容によっては申込みできない場合があります。



通帳レス口座
スタートキャンペーンを実施。
2022年2月14日～9月30日

「ちくぎんDXローン」取扱開始 2022年3月



福岡県信用保証協会との提携商品「ちくぎんDXローン」の取扱を開始いたしました。フィンテックベンチャーのOLTA株式会社が提供するクラウド入出金管理サービス「INVOY*」の機能を活用し、お客様の資金繰りをサポートいたします。



*INVOYは、OLTA株式会社の完全子会社であるFINUX株式会社が提供しております。

九州産業大学と商材チラシ・ポスターを制作 2022年5月

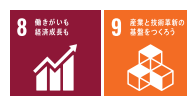


企業型確定拠出年金「誰でもDCプラン」
(2022年4月「ちくぎんDCプラン」から名称変更)

事業承継

包括連携協定先である九州産業大学と連携し、商材チラシ・ポスターを制作しました。制作に当たっては当行が金融サービス等の講義を行い、芸術学部ビジュアルデザイン学科の学生の皆さんがそこから新しい発想で次々とアイデアを出しました。

「株式会社まちのわ」のデジタル通貨事業



当行、SBIホールディングス株式会社、九州電力株式会社が2021年5月に共同で設立した「株式会社まちのわ」は、地域のデジタル化を推進する地域情報プラットフォームを活用し、プレミアム付電子商品券・地域通貨等を発行・運用するサービスをはじめとした地方創生および地域経済の活性化を推進する事業を展開しております。プレミアム付地域商品券を電子化することでコロナ禍に対応した非接触型決済はもちろん、利用者の利便性向上、発行者の事務作業の大幅軽減などを実現しています。



■ お客さまへの大切なお知らせ

大川支店を柳川市の「ちくぎん有明ビル」へ移転 2022年1月

大川支店は2022年1月17日（月）に、柳川支店と同じ、ちくぎん有明ビル内に移転いたしました。

筑邦銀行大川支店
柳川市三橋町高畑197番地 電話：0944-87-2134

旧大川支店跡（大川市大字榎津240番地）には、店舗外ATMコーナー「大川市榎津出張所」を新設しております。
大川市榎津出張所 営業時間：平日 8:00～21:00、休日 8:00～21:00



「筑邦銀行SBIマネープラザ北九州」の運営開始 2022年4月

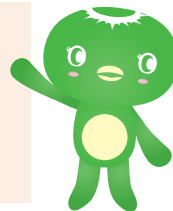


当行とSBIマネープラザ株式会社は、2022年4月27日（水）より北九州市において新たに共同店舗の運営を開始いたしました。久留米市、福岡市に続いて3店舗目の運営となります。

筑邦銀行SBIマネープラザ北九州
北九州市小倉北区米町2丁目2番1号（筑邦銀行北九州支店内）
営業時間：平日 9:00～17:00
休業日：土曜日・日曜日・振替休日・国民の祝日
電話：050-1704-6000
取扱業務：金融商品仲介業務



オープニングセレモニー



■ 役員／株式について

役員氏名

(2022年6月28日現在)

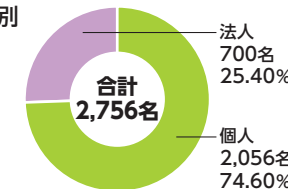
取締役頭取（代表取締役）	佐藤 清一郎	上席執行役員	橋本 賢治
取締役専務執行役員（代表取締役）	執行 謙二	上席執行役員	西田 吉孝
取締役常務執行役員	鶴久 博幸	執行役員	田中 省吾
取締役常務執行役員	金子 末見	執行役員	宮原 憲一
取締役常務執行役員	藤崎 勇一郎	執行役員	荒巻 康宏
取締役上席執行役員	野口 光	執行役員	平田 和久
取締役	麻生 渡	執行役員	野口 景介
取締役 監査等委員	中野 慎介	※取締役 麻生渡、取締役 監査等委員 立花洋介、永田見生、西村和芳は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。	
取締役 監査等委員	池部 晋		
取締役 監査等委員	立花 洋介		
取締役 監査等委員	永田 見生		
取締役 監査等委員	西村 和芳		

株式の状況

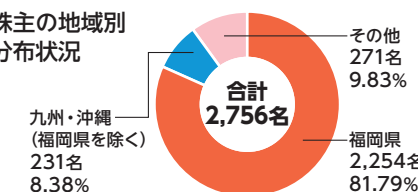
(2022年3月31日現在)

発行済株式の総数 6,249,020株
株主数 2,756名

▶ 株式の所有者別分布状況



▶ 株主の地域別分布状況



株式のご案内

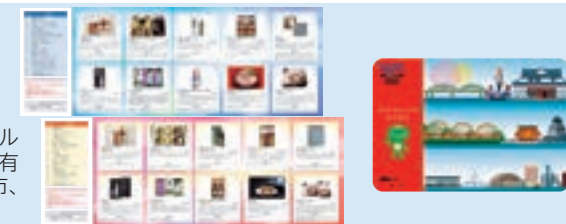
1. 事業年度	毎年4月1日から翌年の3月31日まで	6. 同 連 絡 先	日本証券代行株式会社 代理人部 TEL 0120-707-843（フリーダイヤル） 〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
2. 期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日	(郵 送 先)	日本証券代行株式会社 代理人部
3. 中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日	7. 上 場 証 券 取 引 所	証券会員制法人 福岡証券取引所
4. 定 時 株 主 総 会	毎決算日後3か月以内に開催	8. 公 告 方 法	電子公告 ただし、電子公告をすることができない場合は福岡市で発行する西日本新聞に掲載
5. 株 主 名 簿 管 理 人 特別口座の口座管理機関	日本証券代行株式会社		

(ご案内)

- 配当金のお受取りは、当行本支店の預金口座振込をご指定いただきますと、早くて便利です。
- 株主さまの住所変更、買取請求、配当金受取の振込指定その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（日本証券代行）ではお取扱いきませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、日本証券代行為口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（日本証券代行）にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、日本証券代行本支店でお支払いいたしますので申し出ください。

株主優待制度のご案内

「株主優待制度」は、株主の皆さまからの日頃のご支援・ご愛顧にお応えするとともに、当行株式への投資魅力を高め、より多くの方々へ長期間保有していただくことを目的として実施しております。
所有株式数100株（1単元）以上保有する株主さまに対し、当行オリジナルQUOカード500円を贈呈し、さらに保有期間12ヶ月以上の株主さまには保有株式数に応じて、当行オリジナル株主優待カタログから地元（福岡県、鳥栖市、日田市など）の特産品等をお選びいただけます。

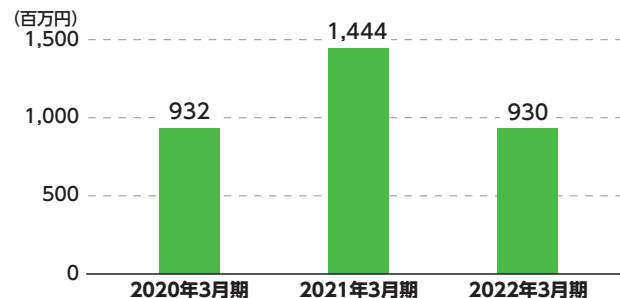


業績ハイライト

経常利益

経常利益は、営業経費や不良債権処理費用が増加したことなどから、前期比5億14百万円減益の9億30百万円となりました。

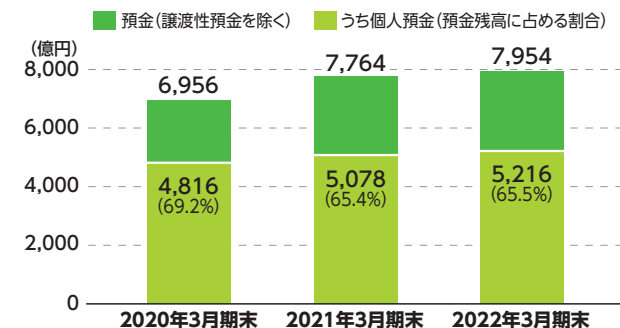
経常利益(単体)



預金

預金は、法人預金が増加したことに加えて個人預金も増加したことなどから、前期末比190億円増加の7,954億円となりました。

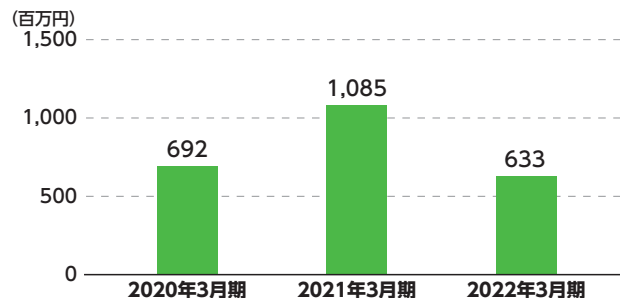
預金残高の推移(単体)



当期純利益

当期純利益は、経常利益が減益となったことなどから、前期比4億51百万円減益の6億33百万円となりました。

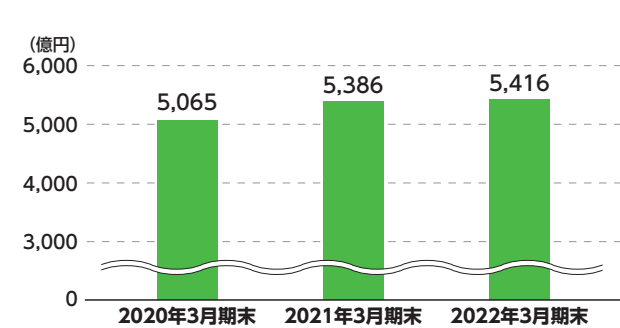
当期純利益(単体)



貸出金

貸出金は、コロナ禍のなか、地元の中小・中堅企業や個人事業主のお客さまに対し、積極的に資金繰り支援を続けた結果、個人向けや地方公共団体向けの貸出金が増加したことなどから、前期末比30億円増加の5,416億円となりました。

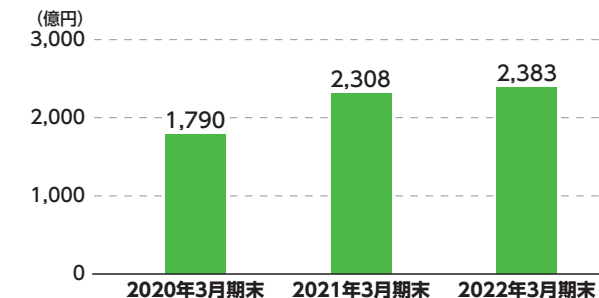
貸出金残高の推移(単体)



有価証券

有価証券は、預金による資金調達为好調に推移したことから、地方債などの債券を中心に投資を行い、前期末比75億円増加の2,383億円となりました。

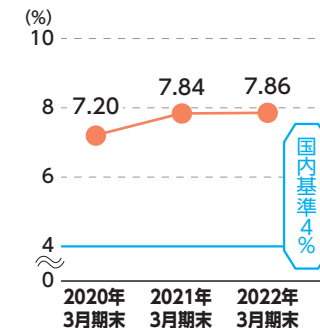
有価証券残高の推移(単体)



自己資本比率

7.86% 国内基準(4%以上)を大きく上回っています。

自己資本比率(単体)



2022年3月期末の自己資本比率は、前期末比0.02ポイント上昇の7.86%となり、最低所要自己資本比率(国内基準)の4%を十分に上回る水準を維持しています。また、資本金や利益剰余金などの普通株式に係る株主資本の額が自己資本の額のほとんどを占めており、質の高さを維持しています。

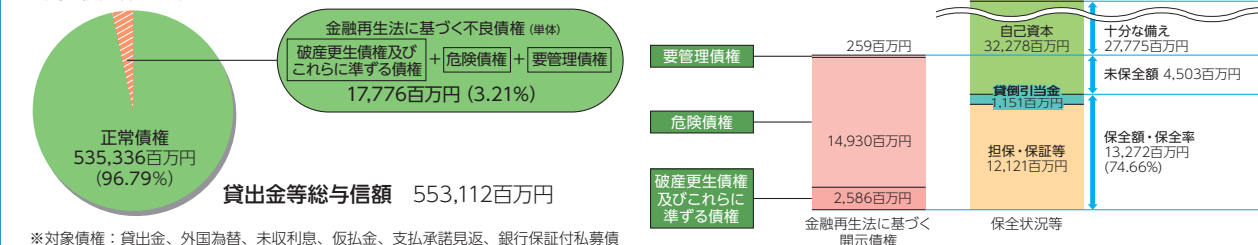
不良債権比率 3.21%*

金融再生法に基づく貸出金等の総与信額5,531億12百万円のうち回収に懸念のない正常債権は5,353億36百万円であり総与信額の96.79%を占めております。

一方、不良債権は177億76百万円(総与信の3.21%)となり、前年同期末の150億88百万円(総与信の2.74%)と比べて26億87百万円増加しました。

また、この不良債権の74.66%(132億72百万円)は、担保・保証等や引当金で保全されています。

*部分直接償却後の比率



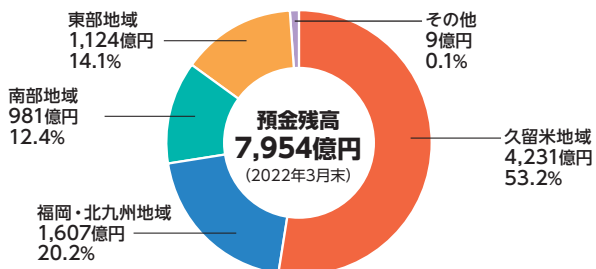
*対象債権: 貸出金、外国為替、未収利息、仮払金、支払承認見返、銀行保証付私募債

業績ハイライト

皆さまとお取引状況(預金・預り資産)

地域別預金残高、構成比率

当行は、地域に根差した金融機関として、設立以来地域の皆さまからのご信頼をいただき、預金は順調に増加しております。今後もお客様のニーズに対応した魅力ある金融商品の提供に努めてまいります。

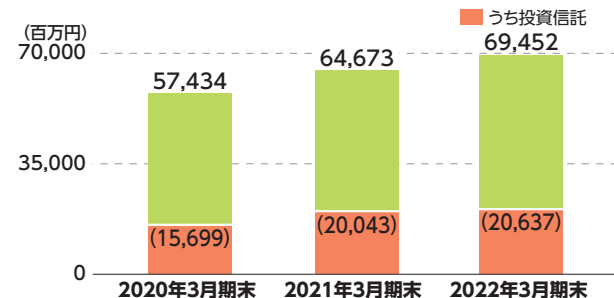


個人預り資産残高

当行は、お客様の多様化する資金運用ニーズにお応えする投資信託や国債等を取扱っております。個人預り資産は、前期末比47億79百万円増加して694億52百万円となりました。

※個人預り資産＝投資信託、生命保険、外貨預金、公共債の合計

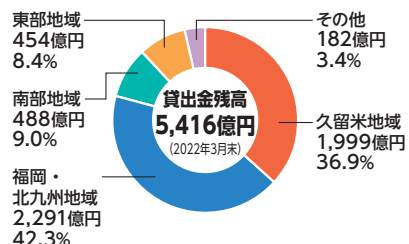
個人預り資産残高の推移



皆さまとお取引状況(融資)

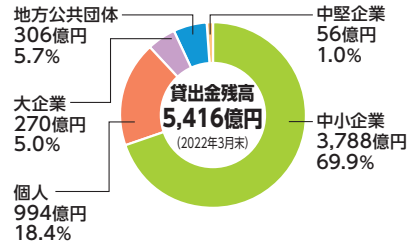
地域別貸出金残高、構成比率

当行が地域のお客さまからお預かりした大切な預金は、そのほとんどを地域の企業や個人の方への貸出に向けており、「地域の資金は地域のために」という当行設立の趣旨を堅持し、地域金融機関の使命を果たしております。



中小企業等貸出金残高、構成比率

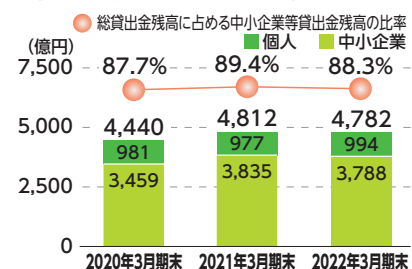
当行は創業時より地域の中小企業や個人の方を中心に貸出を行っております。今後もお客様のニーズを的確につかみ、必要とされる資金・金融サービス・各種金融情報をタイムリーに提供してまいります。



中小企業等貸出金残高、比率の推移

中小企業および個人の方に対する貸出金の残高は、前期末比29億円減少し、4,782億円となりました。総貸出金に占める中小企業等貸出金残高の割合は、88.3% (中小企業69.9%、個人18.4%) と引き続き高い割合を維持しております。

中小企業等貸出金残高、比率の推移



財務のご報告 (単体)

第98期末 貸借対照表 (単位:百万円)

科目		金額	科目		金額
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	90,153	預金	795,462		
買入金銭債権	435	譲渡性預金	4,145		
有価証券	238,303	借入金	47,000		
貸出金	541,648	外国為替	7		
外国為替	1,547	その他負債	2,797		
その他資産	4,459	役員株式給付引当金	214		
有形固定資産	8,411	偶発損失引当金	158		
無形固定資産	342	再評価に係る繰延税金負債	971		
前払年金費用	554	支払承諾	8,656		
繰延税金資産	846	負債の部合計	859,414		
支払承諾見返	8,656	(純資産の部)			
貸倒引当金	△1,983	資本金	8,000		
資産の部合計	893,377	資本剰余金	5,759		
		利益剰余金	18,557		
		自己株式	△354		
		株主資本合計	31,962		
		その他の有価証券評価差額金	224		
		土地再評価差額金	1,775		
		評価・換算差額等合計	1,999		
		純資産の部合計	33,962		
		負債及び純資産の部合計	893,377		

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第98期 損益計算書 (単位:百万円)

科目	金額
経常収益	11,293
資金運用収益	8,637
(うち貸出金利息)	6,758
(うち有価証券利息配当金)	1,735
役員取引等収益	1,999
その他業務収益	154
その他経常収益	501
経常費用	10,363
資金調達費用	70
(うち預金利息)	57
役員取引等費用	1,048
その他業務費用	55
営業経費	8,033
その他経常費用	1,156
経常利益	930
特別利益	13
特別損失	0
税引前当期純利益	943
法人税、住民税及び事業税	281
法人税等調整額	28
法人税等合計	309
当期純利益	633

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

第98期 株主資本等変動計算書 (単位:百万円)

	株主資本							評価・換算差額等			純資産計		
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	土地再評価差額金	評価・換算差額等合計					
当期首残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	8,111	18,236	△357	31,637	4,624	1,775	6,400	38,038
当期変動額													
剰余金の配当							△312	△312	△312				△312
当期純利益							633	633	633				633
自己株式の取得									△1				△1
自己株式の処分									4				4
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)										△4,400		△4,400	△4,400
当期変動額合計							321	321	3	325	△4,400		△4,075
当期末残高	8,000	5,759	5,759	2,724	7,400	8,433	18,557	△354	31,962	224	1,775	1,999	33,962

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

当行ブランドの浸透、定着への取組み

「中期経営計画2021」(2021.4.1~2024.3.31)スタート時に制定した当行ブランドの浸透、定着に取り組んでおります。

動かす人がいる。

ブランドメッセージである「動かす人がいる。」は、未来に向かって進んでいく筑邦銀行の決意を短いフレーズで表現した言葉です。行員一人ひとりが目指すべき姿、筑邦銀行の新しい価値を宣言し、行内外に発信していくものです。

ブランドエレメント: **C3-LINE**

[シーサリー・ライン]

どこまでも伸びていくこのラインは、行員一人ひとりがその力を発揮し、切り拓いていく未来への道を表現しています。筑邦銀行のロゴマークにもある3本の線が1本に集結していくその様は、行員全員が一丸となる筑邦銀行を表しています。

● ブランドサイトの立ち上げ (2022年4月)

筑邦銀行のホームページに掲載しているバナーからご覧いただけます。
(URL <https://www.chikugin.co.jp/page/brandmessage/>)



● ブランドムービーの公開 (2022年4月)

筑邦銀行YouTube公式チャンネルでご覧いただけます。
(URL https://m.youtube.com/channel/UCRVMRCsK_7ov9kMyYu5BRIA/videos)

店頭デジタルサイネージでもお届けしております。
また2022年4月1日~21日の期間、TVCMとして放映いたしました。



 筑邦銀行

筑邦銀行企画本部企画グループ広報チーム
〒830-0037 久留米市諏訪野町2456-1
TEL (0942) 32-5331 (代)
<https://www.chikugin.co.jp/>



株式会社 筑邦銀行 登録金融機関 福岡財務支局長(登金)第5号
加入協会 日本証券業協会

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

